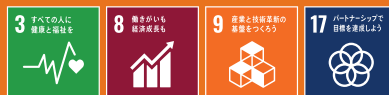


Focal Field 2 安全安心リモート社会

安全安心の新しい価値を創出

医療・ヘルスケア、介護、ものづくり、産業インフラなどさまざまな分野で、川崎重工グループが持つ遠隔操作・情報技術、ロボティクス技術などを用いて、リモート社会の実現により全ての人々が社会参加できる新しい働き方・暮らし方を提案しています。また防衛・防災分野においても、さまざまなリモート技術を開発するなど、安全かつ安心して暮らせる社会の実現に積極的に取り組んでいます。



遠隔医療の実現

関連する事業 ●精密機械・ロボット

手術支援ロボット「hinotori™サージカルロボットシステム」※

川崎重工は、シスメックス株式会社との合併会社として医療用ロボットの開発・製造・販売を行う株式会社メディカロイドを設立しました。株式会社メディカロイドは、当社が50年以上の歴史の中で培った産業用ロボットの技術をベースに、患者様にやさしい低侵襲手術を実現するため、手術支援ロボット「hinotori™サージカルロボットシステム」※を開発しました。2020年に厚生労働省からの製造販売承認を取得し、発売後も医師のご意見を取り入れ、ユーザビリティを高めた機能を提供しながら国内事業を拡大するとともに、2024年8月までにシンガポール、マレーシアにおける販売承認を取得するなどグローバル市場への導入も推進しています。同システムは2025年6

月末時点で累計11,000例以上の手術で使用されています。また、社会課題解決のための取り組みとして遠隔手術の実現に向けたプロジェクトに参画し、2025年6月には欧州と日本間で初となる遠隔手術の実証実験に成功するなど、医療の地域格差解消に貢献する技術として期待されています。



手術支援ロボット「hinotori™サージカルロボットシステム」※
(製造販売元:株式会社メディカロイド)

※ hinotori™は株式会社メディカロイドの商標です。

位置情報によるDXソリューションサービス

協業による事業開発

人・モノの動きの見える化で働き方改革

2021年にPNT事業を立ち上げ、アジアを中心に展開しているMapxus社へ出資し、国内独占事業として屋内位置情報サービス「mapxus Driven by Kawasaki™」を提供してきました。本サービスは、Wi-Fi電波環境のみで特別なハードウェアを必要としません。さらに、この「屋内」の位置情報とGPSなどで取得する「屋外」の位置情報をシームレスにつなぐこともできます。

すでに三井不動産株式会社、成田国際空港株式会社、神戸須磨シーワールドに加え、その他大手メーカーの工場でも本サービスを採用いただいています。また、当社の配

送ロボットサービスやヘルスケア事業との連携により、病院・介護施設の業務効率化手段としてトータルソリューションを提案しています。屋内の人やモノの位置・回遊情報を把握、分析し、業務改善などのDXソリューションとして幅広く提供することを目指していきます。



位置情報によるDXソリューションサービス

ヘルスケア領域の新規開拓

関連する事業 ●精密機械・ロボット

介護現場への機器やロボット導入を支援

人手不足などの問題を抱える介護施設への適切な介護機器やロボットの導入をサポートする介護業務支援サービス事業に2024年から参入しています。一般社団法人日本ノーリフト協会と協同し、介護施設や介護機器メーカーにおける現場の課題やニーズを把握し、それらをサポートする介護機器やロボットの推薦を行っており、本年7月、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) の「介護DXを利用した抜本的現場改善事業」に対して、デジタル技術を活用した「介護テクノロジーの定量的改善および投資効果を提示する機能を有する介護DXパッケージモデルの開発」の提案が採択されました。また、新たな機器開発や

現場への導入・活用・定着までを支援します。現場の課題やニーズを把握するための介護スタッフの行動計測には、当社が提供する屋内位置情報 サービス「mapxus Driven by Kawasaki™」を活用しています。神戸市介護テクノロジー導入促進プロジェクトに参画し、特別養護老人ホーム「六甲の館」(運営:社会福祉法人 弘陵福祉会)および介護付有料老人ホーム「ディアージュ神戸」(運営:JR西日本プロパティーズ株式会社)において、実証試験を実施しています。



介護業務支援サービス

人とロボットの共存する社会の実現を

関連する事業 ●精密機械・ロボット ●パワースポーツ&エンジン

配送業務を自動化し、人は人にしかできないことを

屋内配送用サービスロボット「FORRO」は、医療施設、宿泊施設、マンション、オフィスなど多様な空間で活躍し、人とロボットが共に働く社会の実現に貢献しています。人手不足が深刻化する中、FORROが荷物や検体、薬剤などの配送を担うことで、スタッフが本来の価値ある業務に専念できる環境を生み出しています。

当社は、2023年7月から藤田医科大学病院、同年10月から藤田医科大学東京 先端医療研究センターにおいて、FORROによる検体や薬剤などの屋内配送サービスのトラ

イアルを提供開始、2024年4月に正式導入に至りました。現在は、慶應義塾大学病院、横浜市立みなと赤十字病院などにおいてもFORROによる自動配送サービスの運用が開始され、これまでに35,000回以上(2025年9月時点)の配送業務に従事しています。

今後も医療従事者の負担軽減および業務効率化に向け、サービスロボットのさらなる活用方法を検討していきます。



屋内配送ロボット「FORRO」

災害への対応

関連する事業 ●航空宇宙システム ●エネルギーソリューション&マリン ●パワースポーツ&エンジン

当社グループはドクターヘリ、非常用発電装置、オフロード四輪車・二輪車などの災害時に役に立つ機器・システムを数多く有しており、能登半島地震においても活躍しました。

一方、2024年より社長を統括責任者とする災害支援

タスクフォースを常設し、平時から関係各所と防災協定の締結、見直しを実施しています。災害が発生した際には、国や自治体と連携し、災害のフェーズに応じた支援を速やかに提供します。



能登半島地震での実施事例

ヘリコプタの手配サービス (Z-Leg™)

オフロード四輪 (MULE)
(出典:陸上自衛隊広報チャンネル)

非常用発電装置

災害支援ボランティア
(注) 能登半島地震で実際に活動